

駆け出し図書館員、半年を過ぎて

京都大学附属図書館 情報サービス課 相互利用掛 飯田 智子

京都大学附属図書館に就職して、早くも半年が過ぎました。レファレンスの得意な、専門性の高い頼れる図書館員に、そしてできれば利用者が声をかけやすい職員になりたい。そんな目標をもって仕事を始めたのですが、現実には目先の仕事をこなすのに精一杯の毎日です。また、大学の図書館員を志望した理由の一つに、様々な分野の資料の中に身を置くことで、常に知的好奇心が刺激されるはずだという期待があったのですが、それを感じる余裕もまだありません。まだまだ先の楽しみになりそうです。

私は公共図書館で半年働いていましたが、大学図書館についてはアルバイト経験もなく、実際に働き出して初めてそのシステムを知りました。公共図書館では職員数が少ないため、配架や選書やカウンター当番、さらにはイベントの企画・運営も全職員が関わって行なっていましたが、大学では仕事が細分化されています。そのため日常的に仕事をこなしているだけでは、自分の担当する仕事以外の部分が見えてきません。例えば、配架に行かないので資料の配置場所が覚えられないし、資料の受け入れや目録作り、電子図書館の運営にも完全にノータッチなので、うっかりすると利用者よりも理解できていないところがあります。部局図書室の様子も、自分が利用者として見に行き初めて知りました。

図書館に対する知識に加えて、さらに専門的な知識の大切さも痛感しています。学術的な単語を知らないために、資料の名前を言われてもその分野が分からなかったり、英単語のスペルミスに気付かないこともあります。当然知っているだろうと利用者が思われる雑誌の略称も、恥ずかしながらまだまだ初耳のものばかりです。また、英語とコンピュータがいるとは聞いて



ていましたが、まさかこれほど必要だとは思いませんでした。この原稿を書いているうちに、勉強しなければならないことをどんどん発見してしまい、非常に焦ってきました。今は回りの先輩職員に助けられながら悪戦苦闘しています。

それでも最近は徐々に周りが見え始めたように思います。準貴重書庫で古い新聞の製本を探す機会があり、手もエプロンも錆色に汚れるし、重いわ錆臭いわでうんざりしたのですが、冷静に考えればあんなに古い新聞原紙を自由に引っ張り出しているというのは、人によっては羨ましい環境なのでしょう。利用者のニーズに直結している仕事なので、やったことには即反応が返ってきますが、もっと資料の内容だとか価値だとかを知っていれば、また違う角度からやりがいを感じることができないのではないかと考えられるようになりました。

私は大学図書館員として京都大学のような大規模な総合大学の、しかも附属図書館という大所帯でスタートをきったわけですが、これを非

常にラッキーなことに捉えたいと思っています。大きすぎて自分がしっかりしなければ、何も覚えないうまなうとなく日常業務で流されてしまう危険がある一方で、欲張ればいろいろなことを吸収できる環境です。勉強熱心な先輩職員に恵まれ、その姿を見ているだけでも刺激になりますし、同じ掛の職員も仕事に手を抜かない人ばかりです。今はまだ支えられるばかりですが、いずれは利用者からも図書館員からも信

頼されるようになりたいです。

デパートも本屋も利用者次第で潰れる昨今ですが、図書館も同じことだと思います。図書館も人間相手のサービス業だということは、公共図書館で身に染みたことですが、大学図書館でもそれだけは忘れずに仕事をしたいと考えています。

(いいだ ともこ)

◆◆◆ 医学図書館が入退館機と閲覧システムを9月より導入 ◆◆◆

医学図書館では、9月3日より入退館機と閲覧システムを導入し、稼働しています。

1985年以降の外国雑誌の貸出手続きについては、機械で読みとる貸出となり利用者に好評です。京都大学職員証、学生証、医学図書館利用証または附属図書館が発行している図書館利用証のいずれかをご持参ください。

また、医学図書館利用規則も改正され、到着一ヶ月以内の新着雑誌を除く雑誌はすべて24時間以内の貸出となりましたのでご注意ください。年末は12月27日まで、年始は1月5日より開館いたしますのでご利用ください。

◆◆◆ 映画と音楽を図書館で楽しみませんか ◆◆◆

来年2月頃より、附属図書館A Vホールにて、映画・ビデオの上映会と音楽鑑賞会を開催します。

図書・雑誌以外にも附属図書館では多くの資料を持っています。その中から古典的名作の映画を上映します。また音楽では故片田 清氏より多くの蔵書（現在附属図書館二階閲覧室に配架）と御一緒に寄贈いただいたCDをかけて聞いていただこうと計画しています。勉学・読書に疲れた心と体を癒やしませんか。

